

## 区分「事例報告」について

**内容：**この情報誌の中心的コンテンツである。評価やIRなどの活動について報告する。論拠を示しづらいコツやハウトゥについても受け付ける。また、事情があってデータ等の客観的な事実をほとんど示すことができないが、実際に用いているアイデアなどを示しておきたいものなども含まれる。原則的に論の展開や説明に際して、事実もしくは事実を説明するものを示せば十分とし、文献等の引用は必須ではない。

**構成と要素：**章立て等の指定はないが、読者に役立つ情報提供となることが重要である。原則的には、執筆テーマが設定され、可能な範囲のデータ・情報などが示され、一定程度の結論が得られていればよい。

**査読の観点：**

- ① 課題を明確に捉えているか：報告のテーマが明確に示されているかどうか、という点がポイントとなる。著者らが自大学の取組事例を報告する場合は、その取組開始に至った動機も含めて記載があるとよい。また、著者らが調査した複数大学の事例を報告する場合、その調査を立案するに至った著者らの動機も含めて記載があるとよい。先行事例の記述は必須ではないが、必要に応じて簡潔に触れるとなおよい。
- ② 利用可能性・応用可能性の高い情報提供となっているか：組織の記述、手法の記述、ツールの記述等に際して、読者が参考にし得る具体的な情報が記述されており、模倣から始まる取り組みは多いと考えるので、必要に応じて「試してみる」ことができるような情報提供があると好ましい。また、図表などを用いて、具体的な説明に心がけており、直感的な理解を促すような工夫も必要であると思われる。重要な点だが、高度な専門的知識がなくとも理解できそうな内容になっているかどうか大きい。専門家でないとは分からない内容は、本区分の求めるものではない。インターネット等で検索すればすぐに分かるようなことまでは詳述する必要はないが、入門者が多いという我が国の大学評価、IR事情をある程度、考慮いただきたい。
- ③ 気づきや示唆が一定程度示されているか：本報告の意味について投稿者から読者へのメッセージをなるべく含めるよう、投稿者には示している。事例では、ハウトゥの共有なども重要だが、示唆の提示による「読者が考えるきっかけ」は欲しいところである。[もちろん賛成意見もあれば、反対意見もあるだろう。しかしながら、これがなければ「何のためにやったのか（書いたのか）」という部分が希薄になり、その結果、全体が平板なものになりかねない。]
- ④ 記述に論理的な矛盾がなく、事務系職員や教員が読みやすいものになっているか：文章の上手い、下手ではなく、話の流れがあり、平易で簡潔な言葉で説明がなされているか、ということである。バックグラウンドも知識、技能レベルも異なる読者がいることを踏まえ、文章の推敲をしていただきたい。なお、文中に文献、資料、webサイトを掲出した場合には、出所を明らかにするよう投稿者に示してある。興味がある読者がさらに深い知識にアクセスできるよう、配慮してもらいたい。

**編集委員会での判断の観点：**投稿規定に示されている様式に従っているか（事前審査時）、報告中で使用している用語の統一などがなされているか、などを中心に誤字脱字の点検を実施する。読者、とくに概ね1年以上当該業務を行っている程度の事務系職員を想定した際に、分かりやすい表現になっているかについても、ある程度考慮している。

**語調：**原則的に一般的な学術論文で見られるような「である調」で書く。一部に口語的な表現が含まれていてもよい。ただし、砕けた表現については、査読者や編集委員会は修正提案を行うことはできる。

その他：厳密な反証可能性は問わない。

### ○ 査読用ルーブリック [ 事例報告 ]

査読の基準	査読の観点
①課題を明確に捉えているか	○ 報告のテーマが明確に示されているか。*
②利用可能性・応用可能性の高い情報提供となっているか	○ 組織の記述、手法の記述、ツールの記述等に際して、読者が参考にし得る具体的な情報が記述されているか。
	○ 図表などを用いて、具体的な説明に心がけているか。
	○ 高度な専門的知識がなくとも理解できそうな内容になっているか。
③気づきや示唆が一定程度示されているか	○ 本報告の意味について投稿者から読者へのメッセージが必要に応じて示されているか。
④記述に論理的な矛盾がなく、事務系職員や教員が読みやすいものになっているか	○ 文章の上手い、下手ではなく、話の流れがあり、平易で簡潔な言葉で説明がなされているか。
	○ (文中に文献、資料、webサイトを掲出した場合) 出所を明らかにしているか。

※ 基準「①課題を明確に捉えているか」については、以下の2点を推奨事項とするが、このような記載が無くとも査読には影響しない。

- 著者らが自大学の取組事例を報告する場合は、その取組開始に至った動機も含めて記載があるとよい。
- 著者らが調査した複数大学の事例を報告する場合、その調査を立案するに至った著者らの動機も含めて記載があるとよい。必要に応じて、先行事例についても簡潔に触れるとなおよい。

※この観点ごとに査読者は以下の4段階での判定を行う。

判定	判定を示す記述
4	十分である
3	概ね十分である
2	不十分な点がある
1	不十分な点が多い